

教育目標		心豊かでいきいきと生活する子ども						
重点目標		1 一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育をすすめる。	2 友だちと共に伸びようとする仲間づくりを進める。	3 健やかな心と体づくりを進める。	4 家庭・地域社会との連携を図り、地域に開かれた幼稚園づくりに取り組む。			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな学力の向上	自ら学び自ら考える力の育成	・語を聞く力、考えたり思いを伝え合ったりする力を育成する。	・保護者アンケートで「人の話を聞く力や自分の思いを言う力がついてきた」という項目の評価が80%以上になる。	A	・保護者アンケートで「人の話を聞く力や自分の思いを言う力がついてきた」という項目の評価が98%であった。教育内容についての理解を得ることができた。 ・実践事例を出し合ったり園内研修会を実施した中で、子供が主体的に遊び込める環境を作っていく必要がある。	・園内研修会や職員会議等で、教職員間で活発な意見交換をし、子供達の育ちや課題、また、保育内容や環境構成、援助等について共通理解を図り、日々の保育に努めている。	・園内研修会などで、子供の育ちや課題について、視点を変えて教師間で活発に意見を出し合うことが大切である。	
	直接体験を通して子どもが心を動かす保育の推進	・園の特色でもあるピオトープなどの園庭の自然物を取り入れた保育を工夫する。	・ピオトープ研修会を月1回実施する。 ・自然を取り入れた教育についての評価を90%以上にする。	A	・ピオトープ研修会を月1回実施し、四季折々の豊かな自然体験ができた。また、11月の「おやじの会」ではピオトープ補修作業を行い、子供達がより身近な自然に興味関心をもっている。 ・自然を取り入れた教育についての評価が94.7%であった。 ・計画的に野菜や花の栽培を行い、食することもできた。	・園の特色であるピオトープを活用した教育活動を引き続き展開していく。 ・今後も園庭の草花や栽培物など四季折々の自然に興味をもてるよう働きかけ、五感を通じた直接体験ができてきた環境づくりを保護者にも協力を得ながら進めていく。	・季節に合わせた植物を栽培し、収穫して食べる体験を多くされている。家庭では体験しにくいとあり、とてもよい体験になると思うので、地域や保護者の協力をお願いして欲しいと思う。	
豊かな心・健やかな体の育成	子どもの健やかな体づくり	・体力向上に視点をあてた保健活動を充実させていく。	・日々の遊びの中に、運動遊びを位置づけるなど体力向上に努める。 ・保健だよりや研修会の実施等を通して啓発を進めていく。 ・保健の話を基に、健康カレンダーを随時配布し、健やかな体づくりを進める。	A	・1回保健の話を実施し、その時期や子供の発達に応じた話をする中で、子供が自分の健康管理を意識するようになった。 ・保健活動、体力向上の評価結果は、100%達成できた。 ・外部講師による運動遊びを実施し、親子で体を動かすことを楽しむ機会となった。	・日々の遊びの中で体力が身につくよう保育内容工夫していった。 ・引き続き健康カレンダーなどを活用し、家庭にも啓発していく。	・体力向上に向けて日々の保育の中で体を十分動かしたり、巧技台等の遊具を活用したり、家庭ではできない経験を積み重ねていくことが大切である。	
	特別支援教育の推進・充実	・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めていく。 ・日々の保育、通級指導を通してインクルーシブ教育を進めていく。	・個別の支援を必要とする子どもについての情報交換を月1回実施し、個別指導計画に基づいた指導を実施する。 ・特別支援対象児保護者との懇談会を年間2回実施し、個々の育ちや課題を共通理解し、具体的な支援に努めていく。 ・特別支援対象児に視点を当てたアンケート項目の評価を80%以上にする。	A	・特別支援対象児の記録を短期間と共に隔週情報交換し、育ちや課題、必要な支援について全職員で共通理解を図った。 ・年間2回特別支援対象児の保護者に個別指導計画の解説、個人懇談会を実施した。また、個々の状況に応じてその都度保護者と話し合う場を設定した。 ・学期に1度「にこにこニュース」を発行し、保護者啓発に努めた。 ・特別支援に視点を当てた項目では96.4%の評価を得た。	・特別支援対象児が多数在籍する中、より保護者との連携を図り、実態に即した援助を行うとともに、必要に応じて関係機関との連携も図っていった。	・対象児の人数が多い中、職員間の情報共有と共通理解により、一人一人の支援とクラス全体への教育がされていると感じた。今後も全員の保護者への啓発を実施し、インクルーシブ教育を進めていけたらと思う。対象児に対する職員の数対応は十分でしょうか？一人一人に十分対応できる職員の数が必要だと思う。	
豊かな心・健やかな体の育成	人権教育の推進・充実	・人権について意識を高める機会をつくり、保護者・幼児に啓発を行う。 ・日々の保育の中で、一人一人を十分に認め、自分も他者も大切にできるような努め。 ・人権教材「ほほえみ」「いたみっこおやくそくカード」などを必要に応じて活用し、自尊感情の育成に努める。	・人権教育に視点を当てた学級懇談会を年1回行う。 ・自尊感情の育成について、保育の中で工夫していること、情報交換を積極的に進行。	B	・日々の保育の中で、人権を尊重した教育活動に取り組んでいた。 ・自尊感情の育成については98.3%の肯定的な評価を得ることができた。	・日々の教育活動の中で教師の対応について、職員会議などで互いに振り返り人権意識を高めていく努力をする。	・自尊感情の育成について、実際にとどのような声かけや対応をすればいいのか、日々の便りなどで保護者に向けて積極的に伝え、啓発していくのが良いと思う。 ・いろいろな子供の良いところを十分認めて自尊感情を育てていくことが大切である。	
	教師の教育力の向上	・質の高い教育活動が行えるように個々の教師の力を育成する。	・保育計画・幼児理解についての話し合いを週1回実施する。 ・園内研究会を年間1回以上、共同研究会との交流を年間1回以上実施する。	B	・幼児理解を基盤とした保育に努めてきた。 ・短期指導計画による情報交換をし、子供の様子に必要な援助、環境構成等について全職員で共通理解を図るよう努めた。 ・共同研究会の園内研究会に参加し、幼児の主体性を育むための保育のあり方について学ぶことができた。	・講師を招聘した園内研修会を年間1回以上、また園内の研修を学期に1回実施し、教職員の資質向上に努める。	・定期的に園内研修会を実施したり、職員会議で協議したりすることで、高め合うことが必要。 ・保育において、見守りだけでは子供は育たない。働きかけなければ喜びは得られない。	
開かれた・信頼される園づくり	安全管理	・危機管理体制の整備を進める。 ・安全指導を進めていく。 ・降園指導や交通安全教室などを実施し、意識を高めていく。 ・流行性疾患などの情報を伝え、早期予防を啓発していく。	・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回、交通指導などの安全指導を月1回は実施する。 ・流行性疾患について、予防ができるように随時保護者に直接呼びかけをする。 ・園の教育や情報で安全意識が高まった評価が80%以上になる。	A	・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回、交通指導などの安全指導を月1回は実施し、非常時の安全指導を行った。 ・警察と連携し、防犯訓練を実施したことで、防犯意識を図ることができた。 ・月1回降園指導を行い、安全指導に努めた。 ・流行性疾患については、季節ごとに「ほけんだより」を通して保護者に啓発することができた。 ・園の教育や情報で安全意識が高まった評価が100%であった。	・定期的な訓練を行い、安全管理として意識を高めていく。また、緊急時の対応が的確にできるよ、非常時の安全指導について把握する。 ・引き続き月1回降園指導を実施し、安全指導に努める。	・3歳児保育実施に向けて、登降園の方法については、園区外から通園する子供や働く保護者が増えることも踏まえ、安全に登降園ができるよう検討してほしい。	
	学校園情報の積極的な発信	・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。	・園での教育内容を視覚を通して伝える機会を年2回実施する。 ・幼稚園の教育内容や家庭教育の啓発につながるたよりを月1回程度発行する。 ・HPの更新を月3回以上実施する。	A	・保護者評価は98%以上であった。映像等を活用した懇談会を年間2回、クラスだより、幼稚園だより等を月1回程度発行し、教育内容や子供の姿を伝えた。 ・HP更新を月3回以上実施した。	・今後も便りや懇談会などで教育内容や子供の様子を伝え、保護者との信頼関係の構築に努め、理解、協力が得られるように取り組んでいく。	・毎月クラスだよりを発行したり、園だよりや正門横の掲示板で毎月の行事予定を知らせたり、個人情報に留意しながらホームページを更新したりすることで、園の情報発信に努めることで、園教育への理解を得ることができている。	
業組協働運営	保護者の関係の構築	・園内行事を通して子どもへのかかわりの機会を設定し、子育ての楽しさを共感し連携を深めていく。	・PTAが参加しているサークル活動の組織の発表の場を設け親睦を深める。 ・「おやじの会」を年4回実施したり、随時サークル活動を実施し、保護者間の連携が深まるようにする。 ・誕生会の出し物を誕生児の保護者が行うようにし、保護者同士のかわりが深まる機会をつくる。	A	・音楽会やお別れ会以上、サークル活動の発表の場を設け親睦を深める。 ・「おやじの会」やサークル活動など、子育て支援事業に関する評価も100%であったので、今後も内容や回数等について検討しながらより良い方向で継続していくようにする。 ・誕生会の出し物では、保護者が主体となって進めていくことができた。	・働く保護者が増えてくる現状を踏まえ、負担とならないよう内容や回数を検討していく。 ・PTA活動においても負担軽減に努めていく。 ・本年度アンケートを実施し、次年度からの行事等について精選を図った。	・近隣の小学校区の保護者や働く保護者が小さいうちから、保護者同士の親睦を深める機会を保持してほしいと思う。	
	子育て支援	・3歳児プレ保育「いちご組」を週2回実施し、幼稚園教育への理解を広げる。 ・預かり保育を実施し、子育て支援に努める。 ・地域へ子育て支援に関する情報の発信を行う。	・「プレ保育」「預かり保育」を実施し、子育て支援の充実を努める。 ・園庭開放、みんなのひろばなどの機会を生かして園の教育を伝える。 ・「おやじの会」を年4回実施する。 ・誕生会の出し物を誕生児の保護者が行うようにし、保護者同士のかわりが深まる機会をつくる。	A	・週2回のプレ保育を実施し、親子活動の充実を図る。 ・預かり保育の必要性に応じた対応ができるようになった。 ・みんなのひろばやむくむくルームと同時連携し、園の教育を知ってもらう機会をつくり、子育て支援の評価が80%以上になる。	・預かり保育において、利用者が増えてくると、予定外の申し込みや利用中止などの対応や、保護者の迎え時間の徹底など、検討課題について共通理解し、保護者にも伝え理解を得ることが必要である。	・「プレ保育」の経験を来年度からの伊丹市の3歳児保育に活かしてほしい。「預かり保育」の利用者が増えている。課題についてはみんなのひろばやむくむくルームの見直しなどを実施して、職員負担が多くなるようにし、保護者もより利用しやすくなるようにと願う。	
業組協働運営	業務改善	・園務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。	・園務分掌を定立し、計画的に職員会議や作業に取り組み。 ・園務分掌上の仕事に各職員が責任をもつて取り組む。 ・定時退勤日を園務日程に位置づけ、超過勤務縮減についての意識を高める。	B	・効率的な業務についての意識を高め、園務分掌についてそれぞれが責任感をもって、園運営に関わっていく。 ・月1回作業日を定立し、全職員で効率よく作業に取り組む。 ・職員会議を時間を決めて行う。 ・月1回の定時退勤日を実施する。	・園務分掌担当者を中心となり、前もって資料を配布するなど、効率よく職員会議を進めるよう努めてきた。また、作業も計画的に役割分担し効率よく行った。 ・保育環境設定、作業、事務仕事、出張等仕事量が多く、超過勤務軽減に努めている。業務改善は引き続き課題である。	・定時退勤日を園務日程に位置づけ、徹底を図る。 ・行事の精選などを進めながら、教育活動がより充実するよう内容を検討する。	・現在の体制では超過勤務軽減は難しく、十分な園運営ができるよう、人員配置などについて改善が必要だと思う。

学校関係者評価総括

本年度は課題が多い中、職員間で協力・分担してしっかりとした保育を実施され、保護者の高評価も得られている。しかし、人員配置については改善する必要がある。より充実された園運営ができるよう人員配置が絶対必要である。

次年度に向けた重点的な改善点

職員間で意見を出し合える関係を築き、互いの良さを認め合いながら自分の役割を自覚し、全職員一丸となって充実した園運営、保育に取り組んでいく。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った